

今月のキラリ

さまざまな団体の
キラリとした活動を紹介

特別支援学校卒業後も

学び続けて成長したい

特定非営利活動法人あかり あかり学園久喜（久喜市）

特別支援学校の高等部を卒業した若者が通う、学びの場として開設されたあかり学園久喜。大学のように4年制で、さまざまな科目を勉強したり、新しい体験を重ねたりするなかで、障害のある若者が大きく成長しています。



3、4年生を対象としたビジネスマナーの授業。
1、2年生は青毛キャンパス、3、4年生は吉羽
キャンパス（いずれも久喜市内）で学んでいます。

NPO法人あかりは、2006年に設立され、県の東部地区で障害者福祉の事業所を運営している団体です。児童発達支援センターや放課後等デイサービス、就労支援事業所など、通所系サービスが中心ですが、2018年にあかり学園久喜という4年制の学びの場を開設しました。

現在、高校を卒業した若者の多くが大学や専門学校に進学しますが、特別支援学校卒業後は一般就労、福祉的就労などが主な進路となっており、働くこと以外の選択肢がほとんどありません。そんななか、法人代表の川岸恵子さんは「障害のある子どもはゆつくり成長するので、高校卒業後は多くのことを身に付ける大切な時期」と考えており、「障害のある若者が『もっと学びたい』と思ったときに、選べる学校をつくりたかった」といいます。

しかし学校設立は容易ではありません。そこで1、2年生は自立訓練事業の福祉サービスを活用し、3、4年生は就労移行支援事業を活用して4年制の学びの場を開設したそうです。

「自信に満ちた表情に変わり自分の思いを表出できるように」
あかり学園のカリキュラムは多彩で、英語、国語、数学、パソコン、音楽、ダンス、スポーツといった科目のほか、洋裁、護身術、ファッション・美容、マナー、冠婚葬祭などについても学びます。3、4年生には実際に作業所で働いたり、一般企業を見学したりするプログラムも用意されています。



特定非営利活動法人あかり代表理事川岸恵子さん（写真右）と、専務理事兼統括責任者の古塚大義さん。「あかり学園久喜は定着支援を行っており、卒業後も生徒の皆さんに寄り添い続け、本人の希望や特性に合う就職先を見つけていきます」